

平成29年5月16日 総合政策委員会 開催状況

開催年月日 平成29年5月16日

質問者 公明党 吉井 透 委員

担当部課 総合政策部政策局北海道150年事業室

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 北海道150年事業について</p> <p>(一) 記念事業の意義と方針について 関連して数点伺います。 道は「新・北海道ビジョン推進方針」に掲げた「世界に輝く北海道」の実現に向けて食と観光などの施策を進め、山積する課題解決に向けて力を傾けていると承知しております。北海道命名150年の節目はこのテーマ「世界に輝く北海道」の実現に向けた大きな契機と考えますが、あらためて記念事業の意義と、方針について伺います。</p> <p>(二) 気運醸成について 先ほど部長からは100年についての思いも聞かせていただきましたけれども、先回の100年の時は一人一人が同じ方向の希望を目指していたという風に言える高度成長の時代に迎えた100年だったという風に思います。今、多様化が進むこの時代になった時のこの150年、かなり時代背景が異なるところでございまして、150年事業の基本方針に書かれております「道民一人一人が新しい北海道を自分たちで創っていく気概を持ち」とありますが、こうした意識を盛り上げていくには様々な知恵と工夫が必要になるという風に考えています。この点について道の考えをお伺いしたいと思います。</p> <p>(指摘) 現代はスマートフォンやSNSといった新しいツールもありますし、道民の気持ちを一つにするには様々な知恵が出せるであろうという風に思います。例えば、150年事業で必ず登場するキャラクターを創って様々活用していただくとか、それほど予算をかけずに、予算がかからずにできることが考えられるという風に思います。多くの道民</p>	<p>[赤塚北海道150年事業室長]</p> <p>150年事業の意義などについてであります。本道が「北海道」と命名されてから150年目となる平成30年を節目と捉えまして、本道独自の歴史や先人の偉業を振り返り、感謝し、道民・企業・団体などが一体となって祝うとともに、未来を展望しながら、互いを認め合う共生の社会を目指して、次の50年に向けた北海道づくりに継承することを基本理念としてございます。</p> <p>この理念を実現するため、「世界の中の北海道」の視点で未来の姿を見据え、北海道の可能性を見つめ直し、新しい価値をつくり、北海道を愛する多くの皆さんの参加により、北海道を盛り上げていくことを基本姿勢といたしまして、幅広い分野からのご意見を取り入れながら、道民参加型の事業として進めていく考えでございます。</p> <p>[岩崎北海道150年室参事]</p> <p>北海道150年事業に関する道民意識の醸成についてでございますが、事業を進めるに当たりましては、道民一人ひとりが自らにも関わる取組としてご認識していただけるよう、道内各地で多くの皆様の参加を促していくことが重要と考えております。</p> <p>このため、実行委員会の公式ウェブサイトのほか、道の広報媒体の活用や各メディアでのプロモーションを行うなど事業PRの充実を図っていくとともに、多くの皆様からご賛同やご協力をいただきながら、道民や企業、団体等の皆様が主体となる北海道みらい事業などを通じまして、北海道全体が盛り上がるよう、取組を進めてまいる考えでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>や自治体・団体を巻き込んでいく上で、知恵を出した工夫をしっかりとお願いしたいということをまず申し上げさせていただきます。</p> <p>(三) 振興局の役割について</p> <p>道内各地には空路や交通網の整備、農林水産業の発展、また経済基盤の整備など、それぞれの地域を支えた、地域の重要な歴史が詰まっているという風に思います。一例ではありますけれども、旭川にとって大事な歴史という風に思われますのが、滝川－旭川間を結ぶ上川線の鉄路開通、これも2018年に実は、150年ではないですが、120年という節目を迎えるわけでありまして。こうした歴史を集めて、この節目に北海道全体の歴史、また道内各地域の歴史として振り返って未来を展望することが重要という風に思っております。</p> <p>そのためには振興局の役割が大変に重要であるという風に、一つ思います。また、実行委員会とそれぞれの振興局が意見のやり取りをしていくことが大事と考えますが、この点について、道の考え方を伺います。</p> <p>(指摘)</p> <p>国内では2020年の東京オリンピック・パラリンピック、これを契機にして経済を大きく動かそうとしているというふうには思いますけれども、北海道にとってこの命名150年というのはそれと同等な価値があるのではないかという風に考えています。この、本日の資料の一番裏の方には、この北海道の「海」の意味にまつわる歴史の由来というのがしっかりと書かれておりますが、実行委員会と各振興局が相互に連携をして、あまり知られていない歴史であるとか、埋もれている北海道の歴史・文化を生かして頂くことを強く望みたいというふうに思います。</p> <p>(四) 今後の展開について</p> <p>昨年の第1回定例会のわが党の代表質問に対する答弁で、知事は「150年を迎えるにあたり、未来を展望し本道独自の歴史や文化、自然などを次世代に引き継いでいくことが重要」という風にした上で「経営や技術、スポーツなどの分野で人材を輩出育成、食や農業、寒冷地技術、エネルギーなど幅広い分野で北海道の潜在力を活用し国際社会に貢献していきたい、というメッセージを世</p>	<p>[岩崎北海道150年室参事]</p> <p>事業の全道展開についてであります。北海道150年の節目に、先人の足跡に学び、歴史や文化、自然など貴重な財産を守り、磨き、未来を展望する取組は重要でございまして、特有の歴史や文化を持つ道内の各地域において、こうした考え方を共有することが大切と認識しております。</p> <p>このため、各振興局が窓口となりまして、市町村や団体、企業等をメンバーとする会議を設けまして、北海道みらい事業の掘り起こしや情報共有を図るとともに、地域として取り組む事業の検討を進めていくこととしてございます。</p> <p>現在、実行委員会では、来年実施いたします具体的な事業計画を検討しているところであり、各振興局と情報共有を図るとともに、実行委員会事務局が、振興局や市町村を訪問するなどして、連携を密にしながら取組を進めてまいりたいと考えてございます。</p> <p>[佐藤総合政策部長]</p> <p>北海道150年事業の推進についてであります。本事業は、北海道命名150年を契機として「北海道」の姿を見つめ直し、歴史や文化など、先人から受け継いだ貴重な財産を次の世代に引き継ぐとの考え方に立って、道民の皆様の参加とご協力をいただきなが</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>界に発信していきたい」という風に答弁をいただきました。</p> <p>最後に、この「みんなで作る北海道150年事業」への、部長の決意を伺います。</p>	<p>ら、文化や経済など様々な交流を広げていこうとするものでございます。</p> <p>150年事業を進めるに当たりましては、「世界の中の北海道」の視点で、未来の姿を見据え取り組むことを基本姿勢の一つとしておりまして、食や農業など本道がこれまで蓄積してきた強みや特性を生かした交流の拡大に努めるとともに、本道の新しい価値、誇るべき価値を共有し、道内外に発信するなどして、北海道全体が盛り上がるよう、積極的に取り組んでまいります。</p>